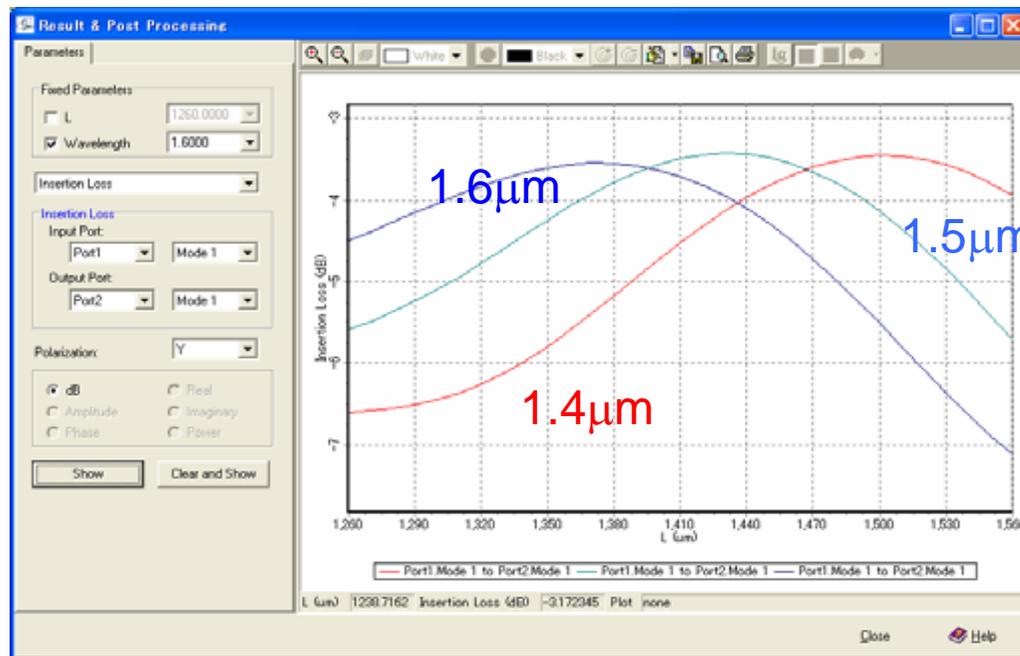


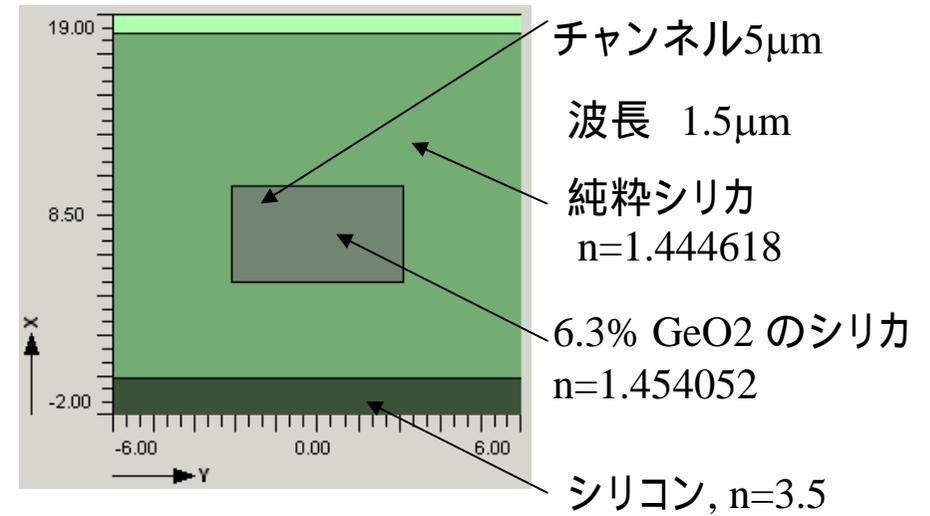
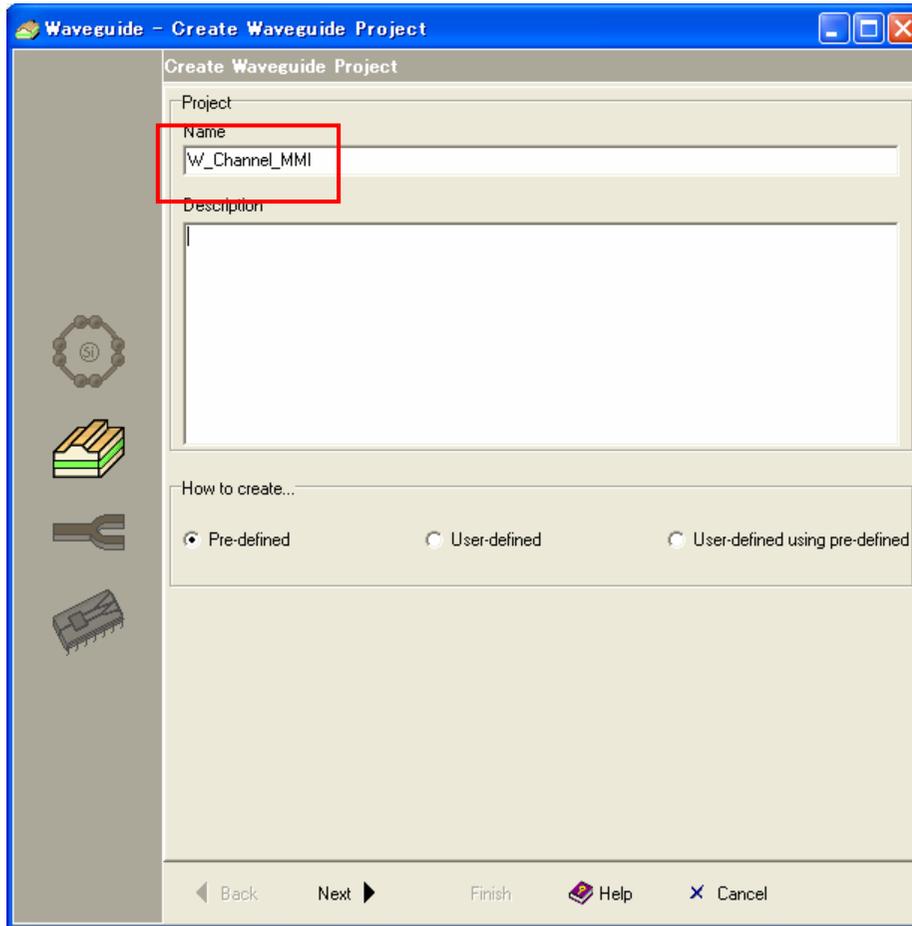
実習7 . MMIの設計

指定帯域でのパワー分岐



MMIを構成する導波路 W_Channel_MMI

1.4 μ m ~ 1.6 μ m



導波路

図1. 導波路プロジェクトの作成

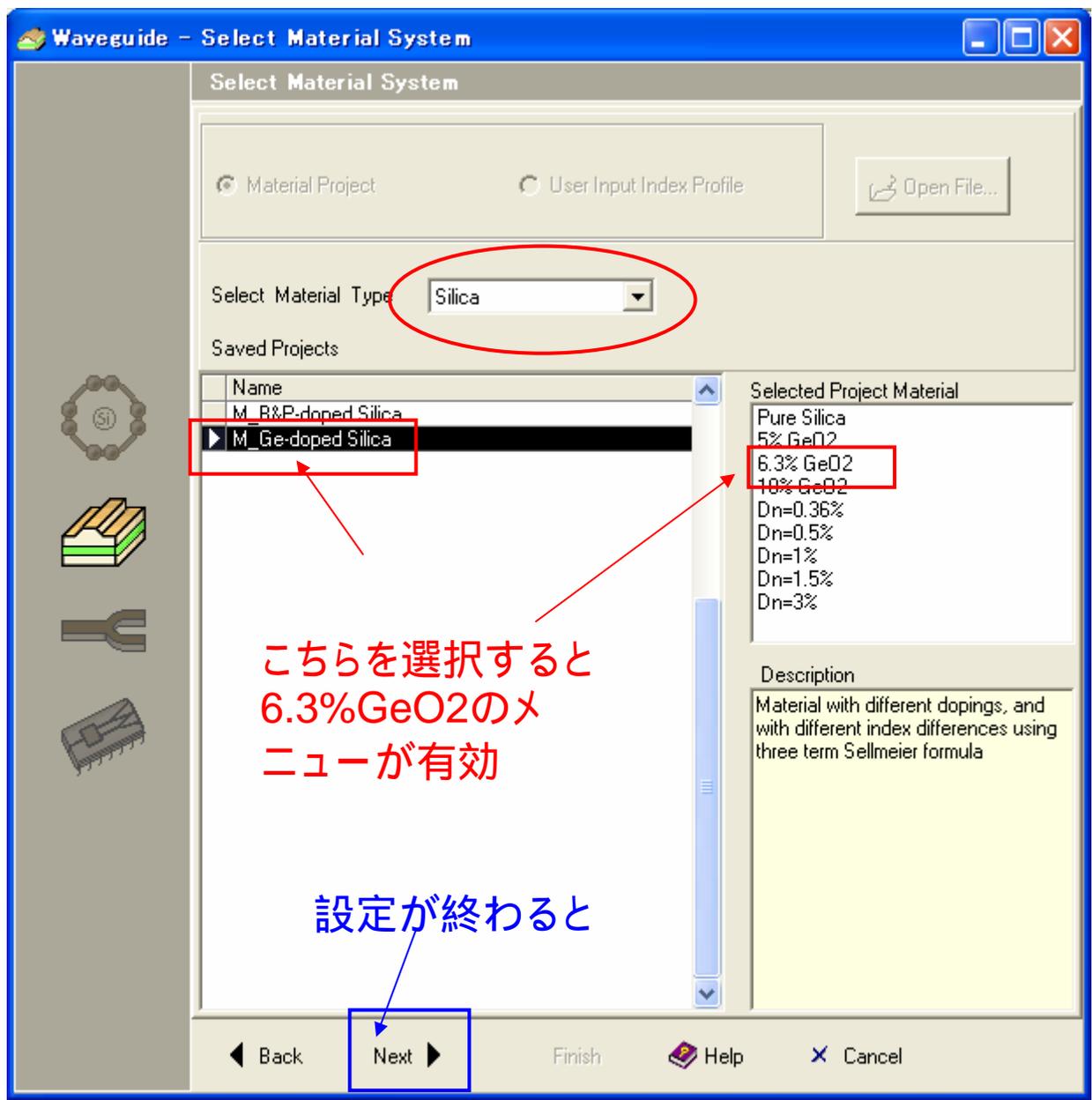


図2. 材料選択

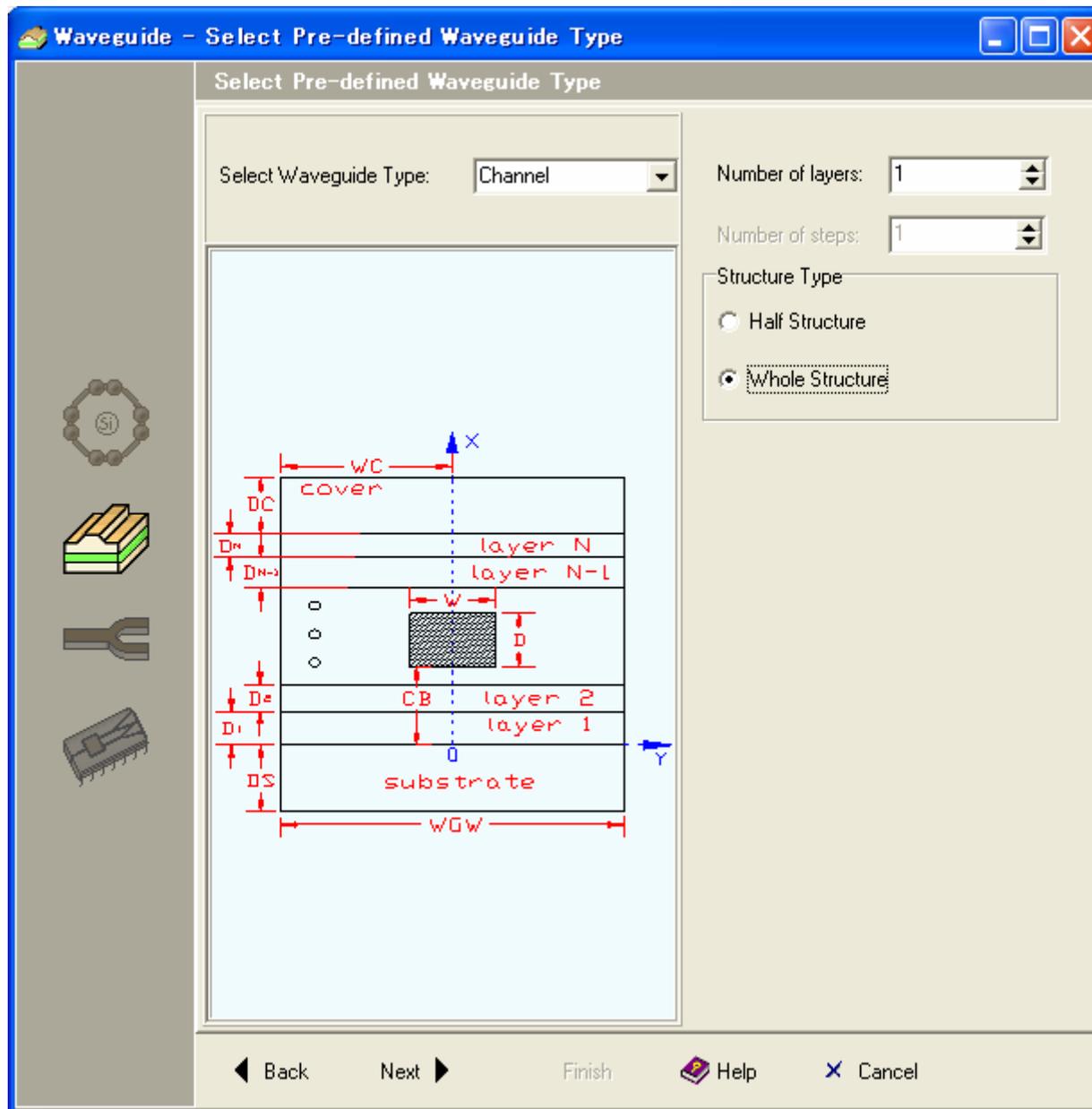


圖3. 導波路構造選取

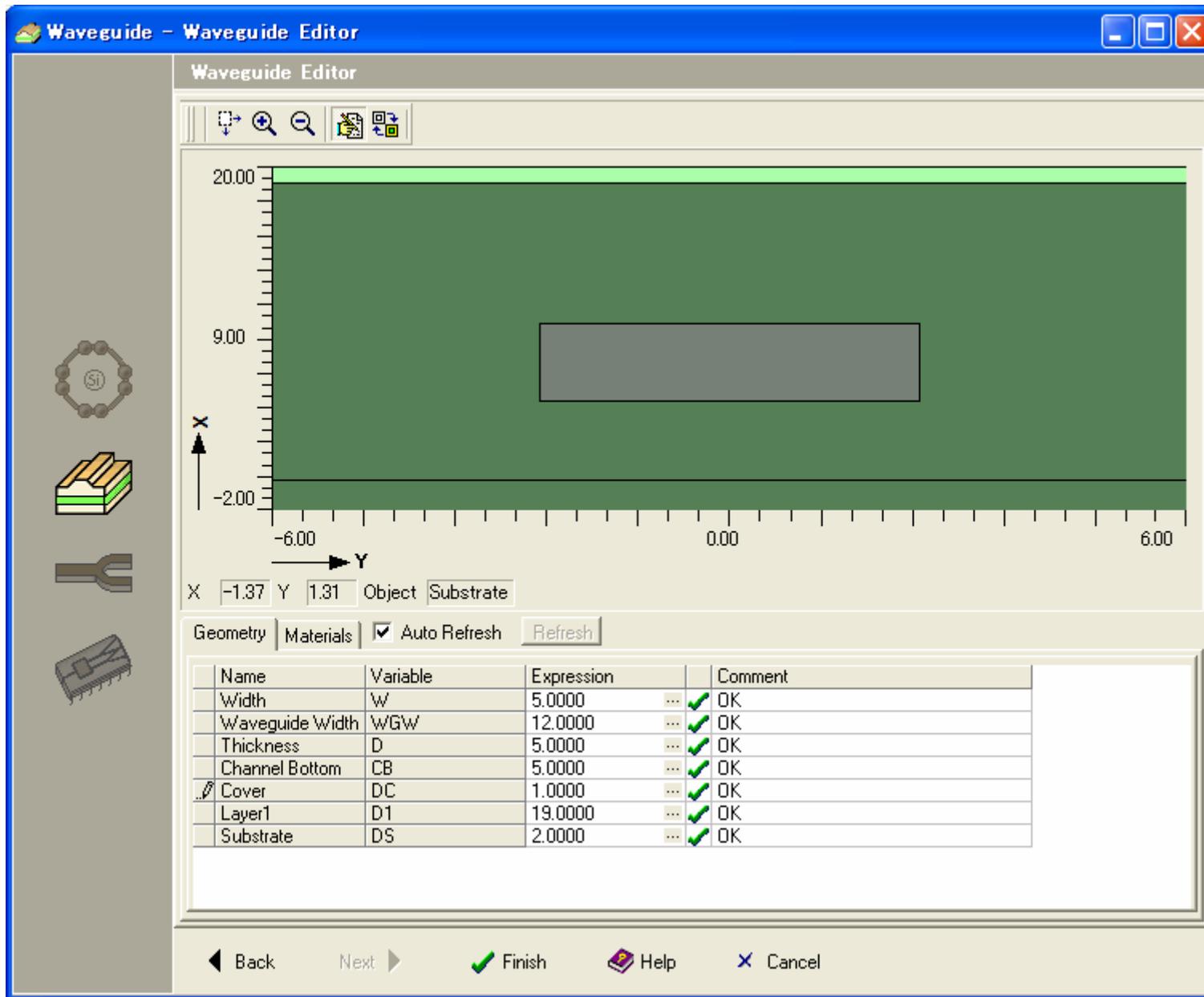


圖4 . 導波路構造定義(寸法)

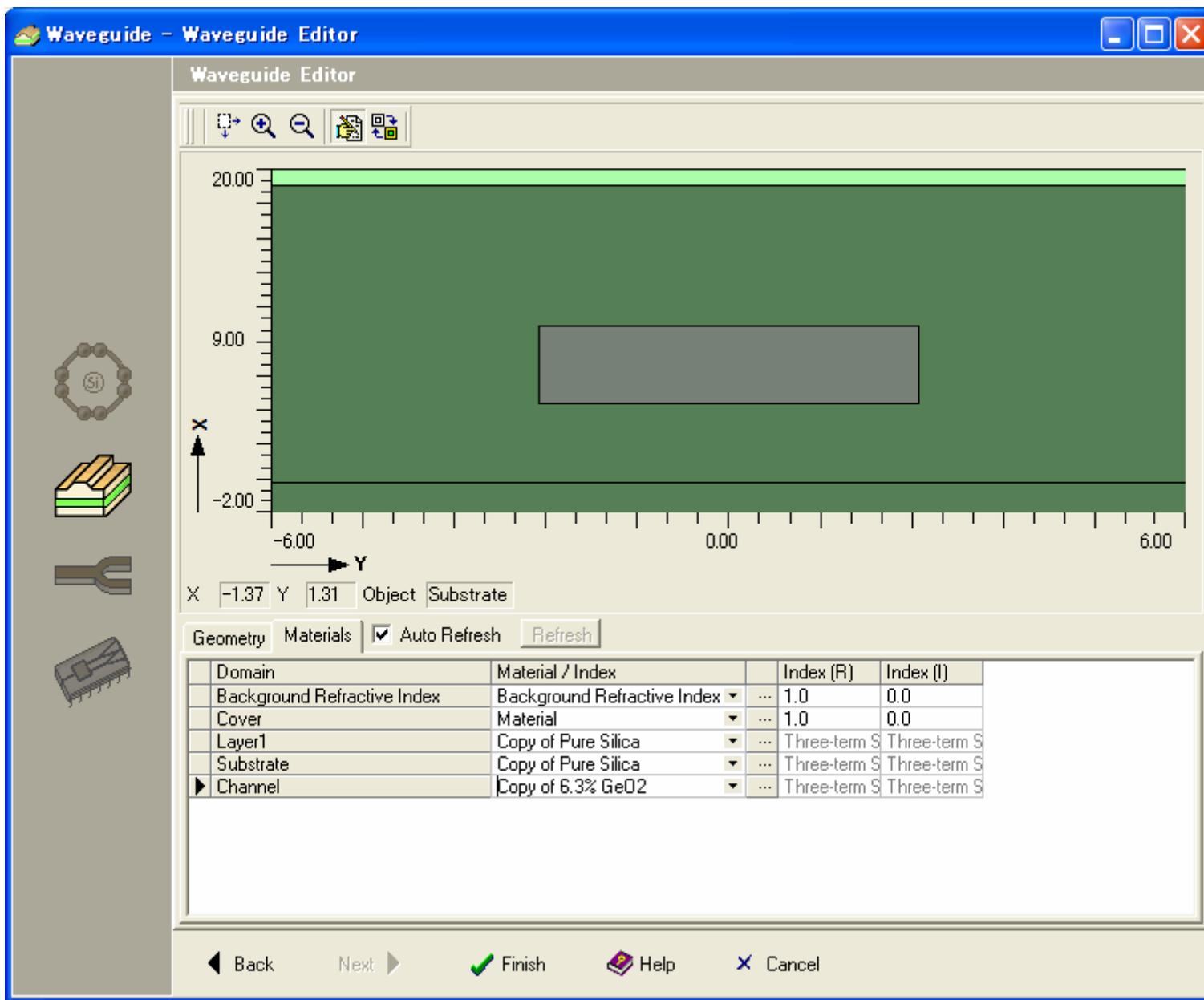


圖 5 . 導波路屈折率設定

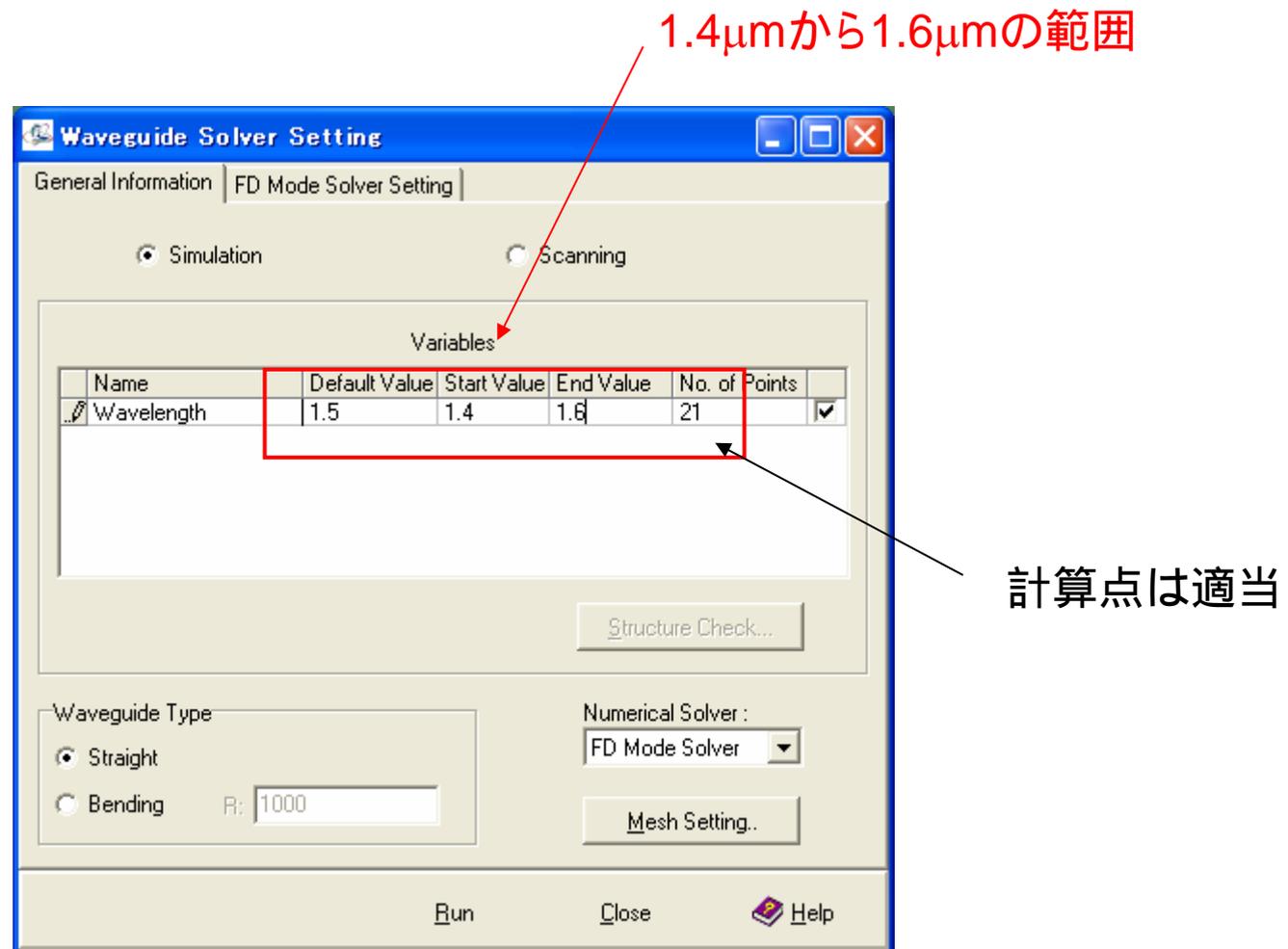


図6 . 波長範囲の設定

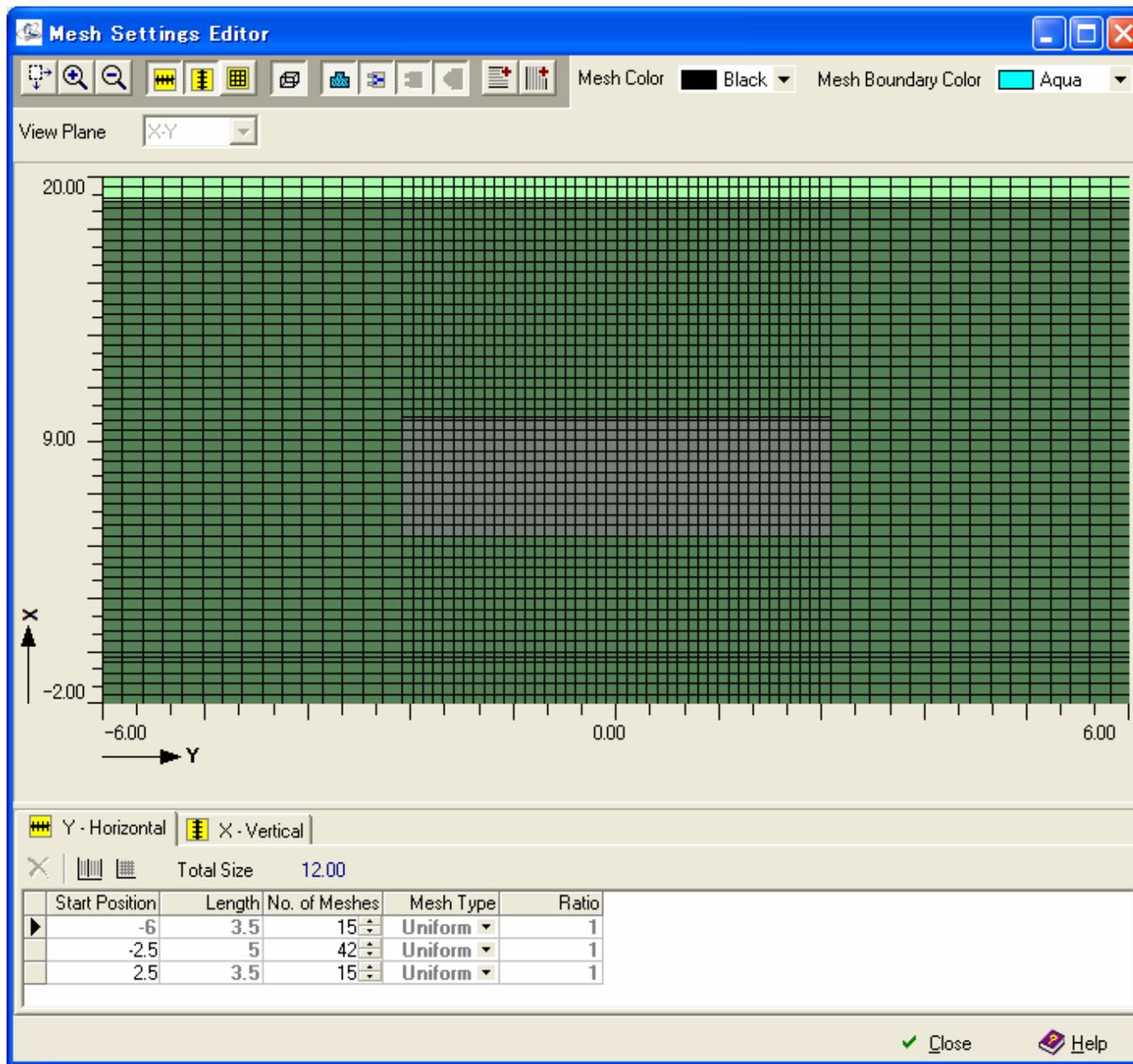


図7. Y(横)方向メッシュ

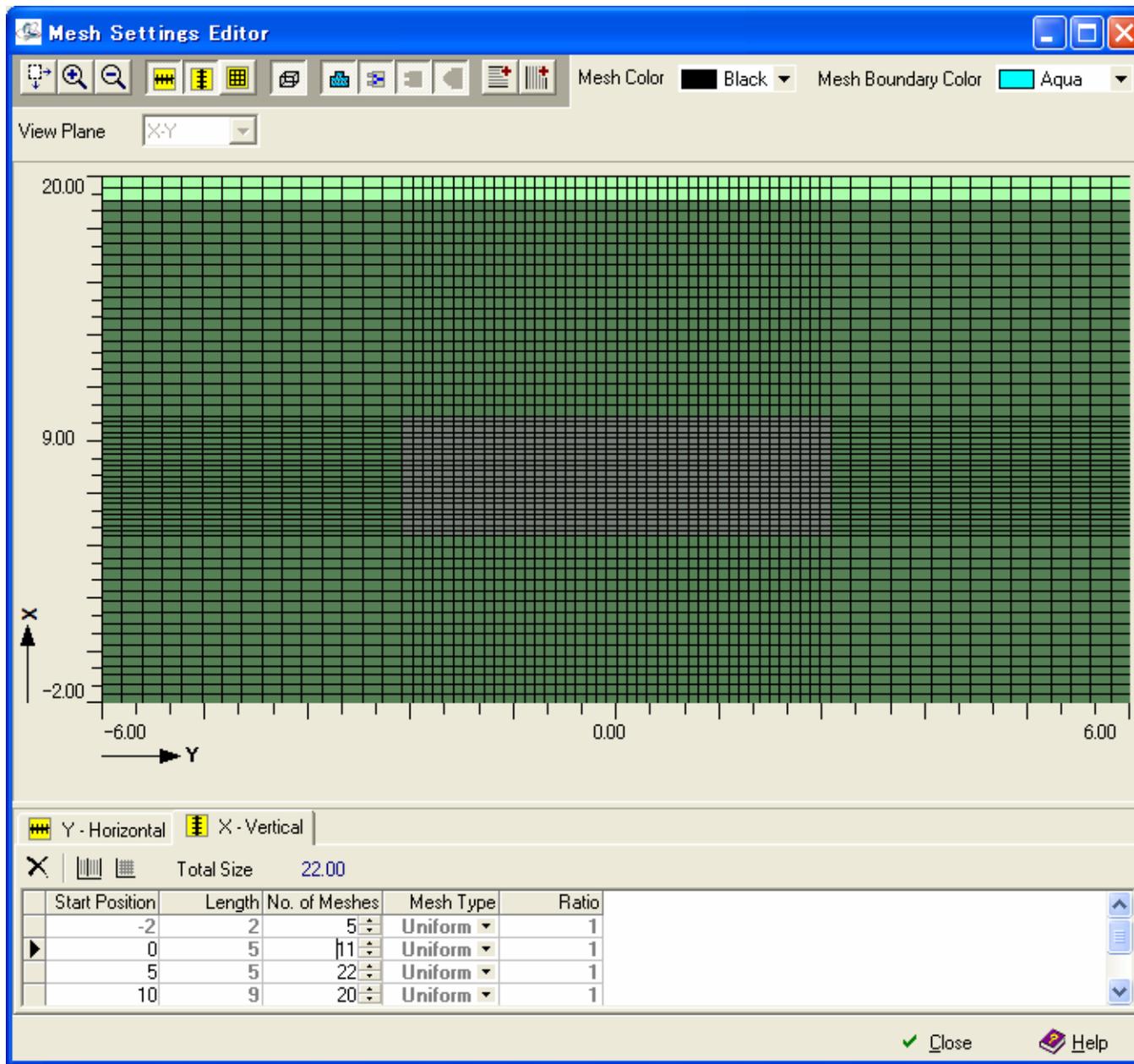


図8 . X (縦) 方向メッシュ

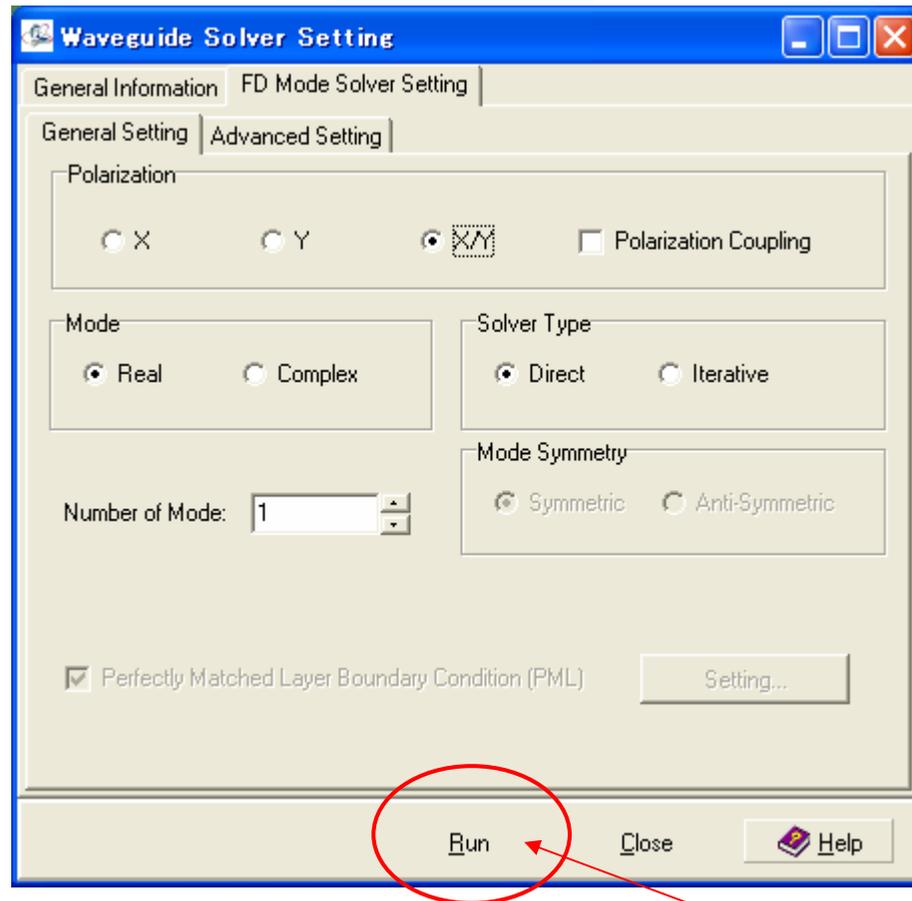
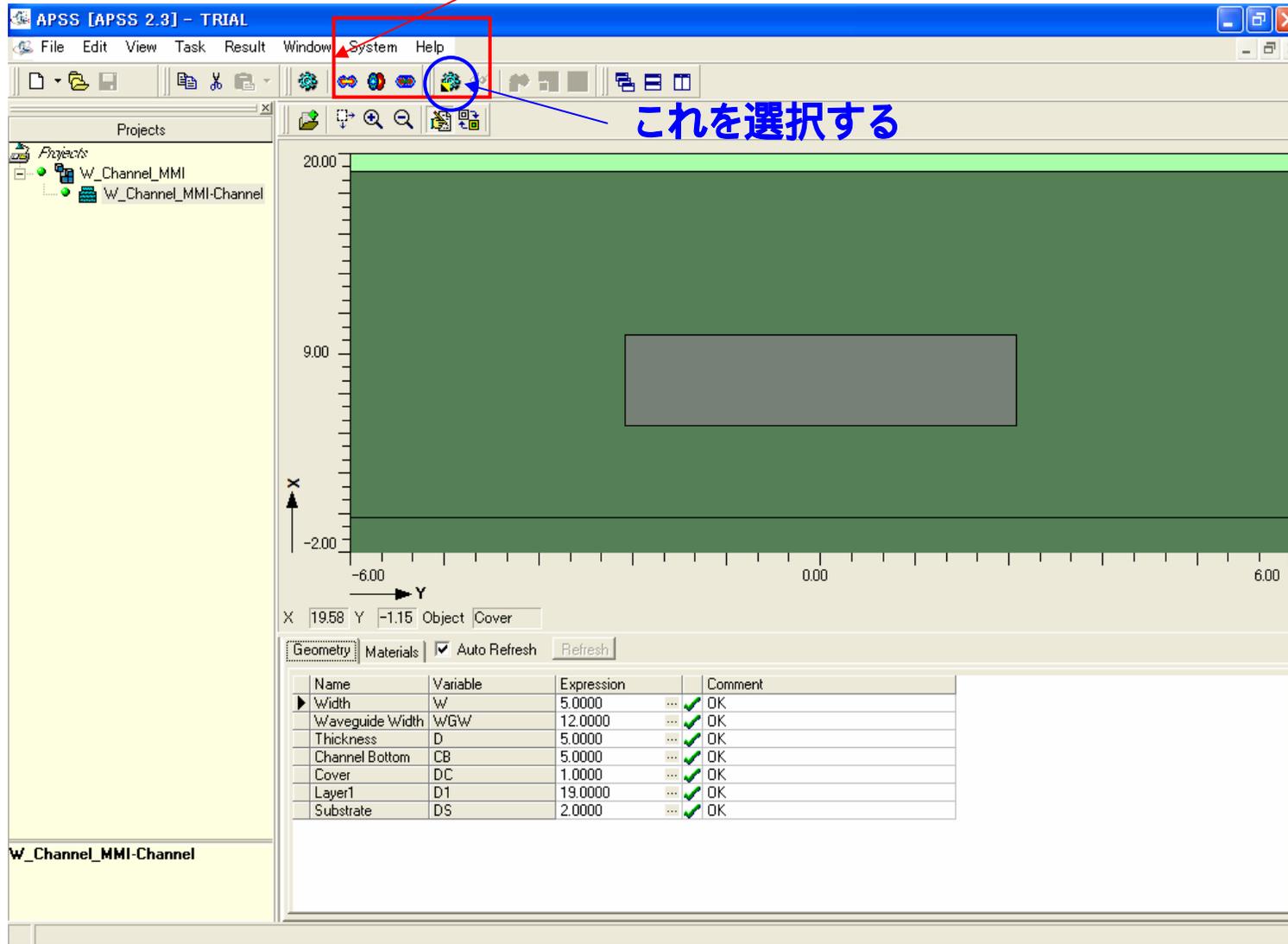


図9 . 偏波選択

設定が終われば実行

構造的には偏波依存が無い導波路構造としているが、ここでは練習のために両偏波での計算を選択した。

正常終了では、これらのボタンが有効となる



これを選択する

図10. 実行後の画面

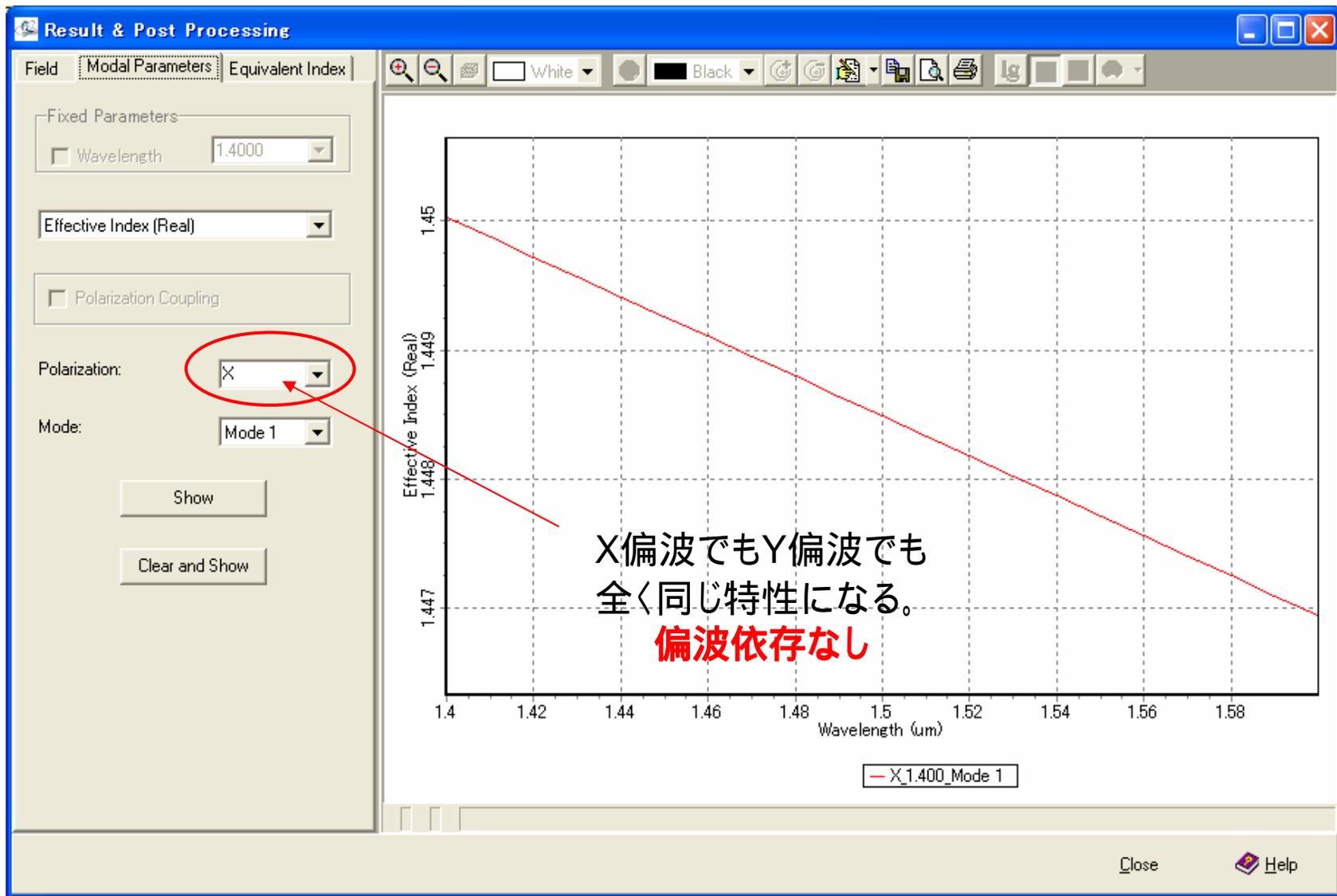


図11. 波長と等価屈折率

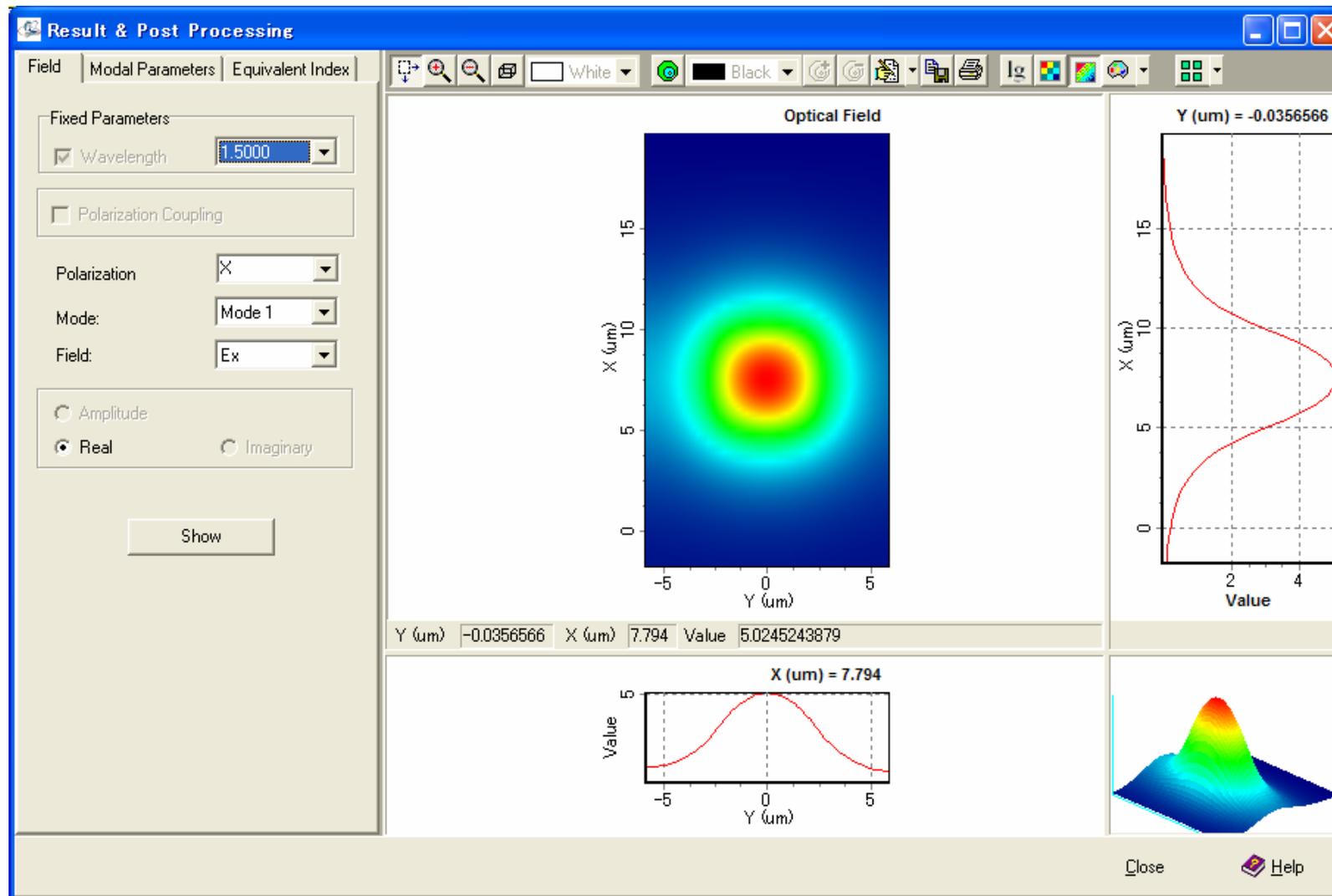


図12. フィールド分布(@1.5 μ m)

ここからデバイス設計

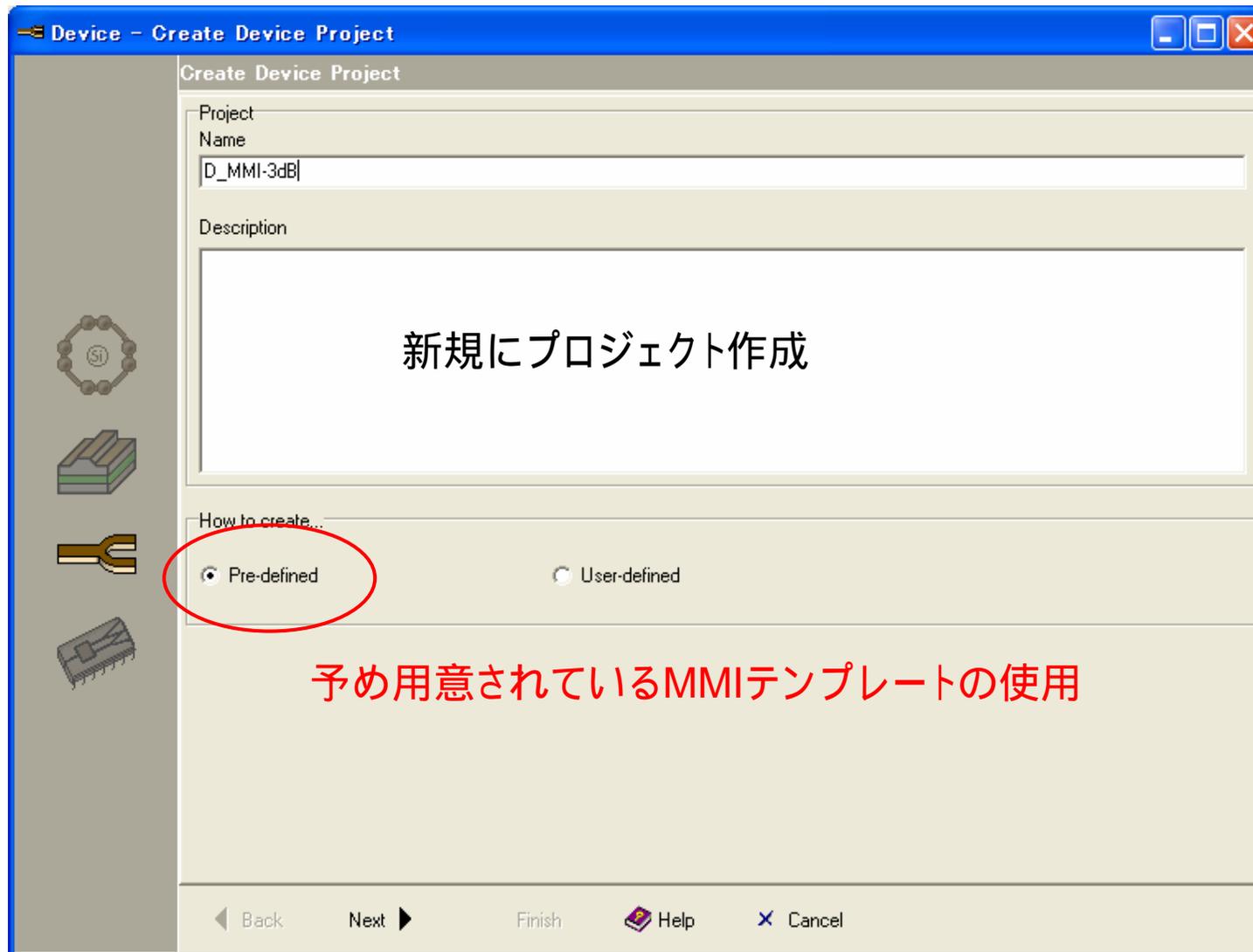


図13 . D_MMI-3dBのデバイスプロジェクト作成

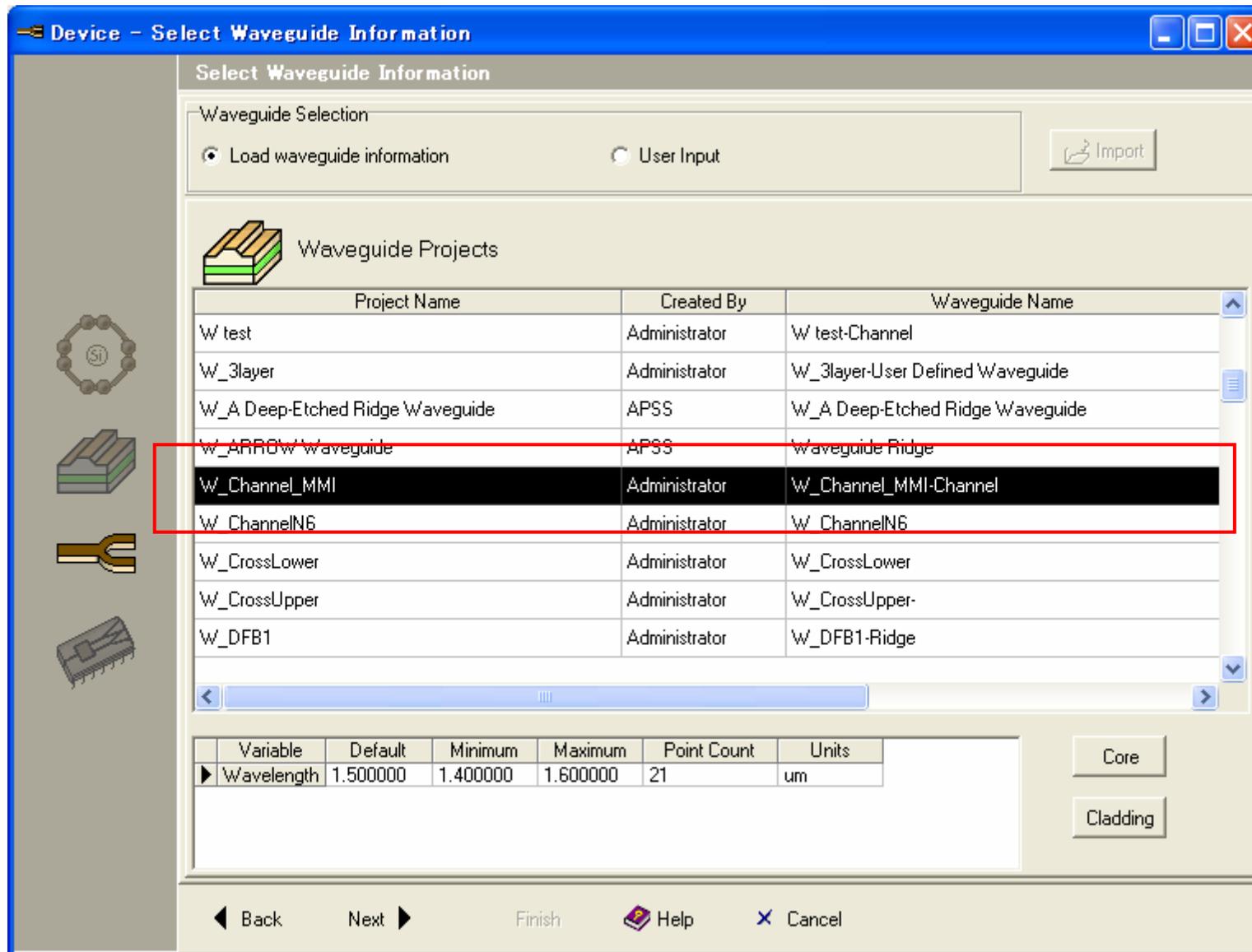


図14. 作成済みの導波路プロジェクトの選択

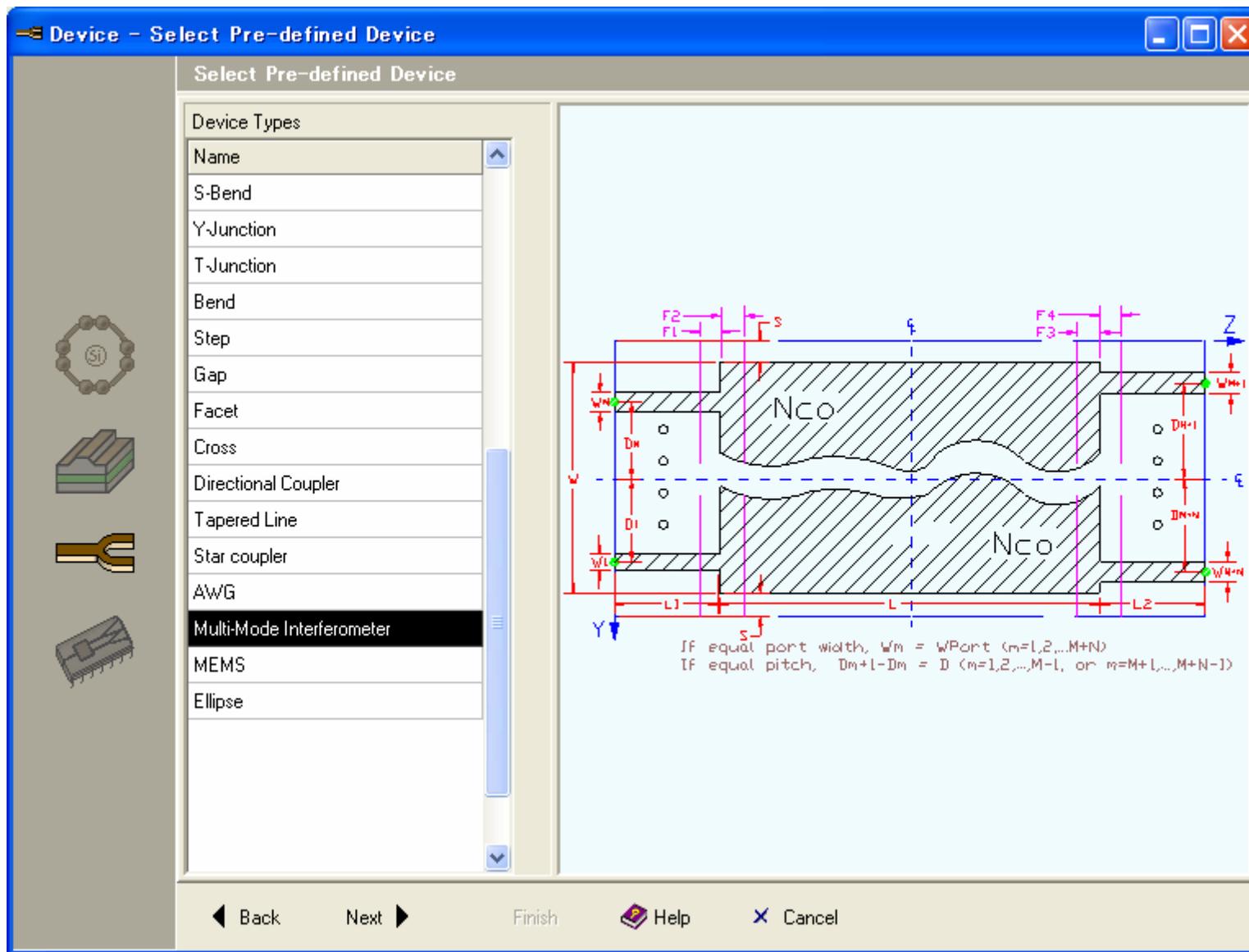


図15 . 作成済みの導波路プロジェクトの選択

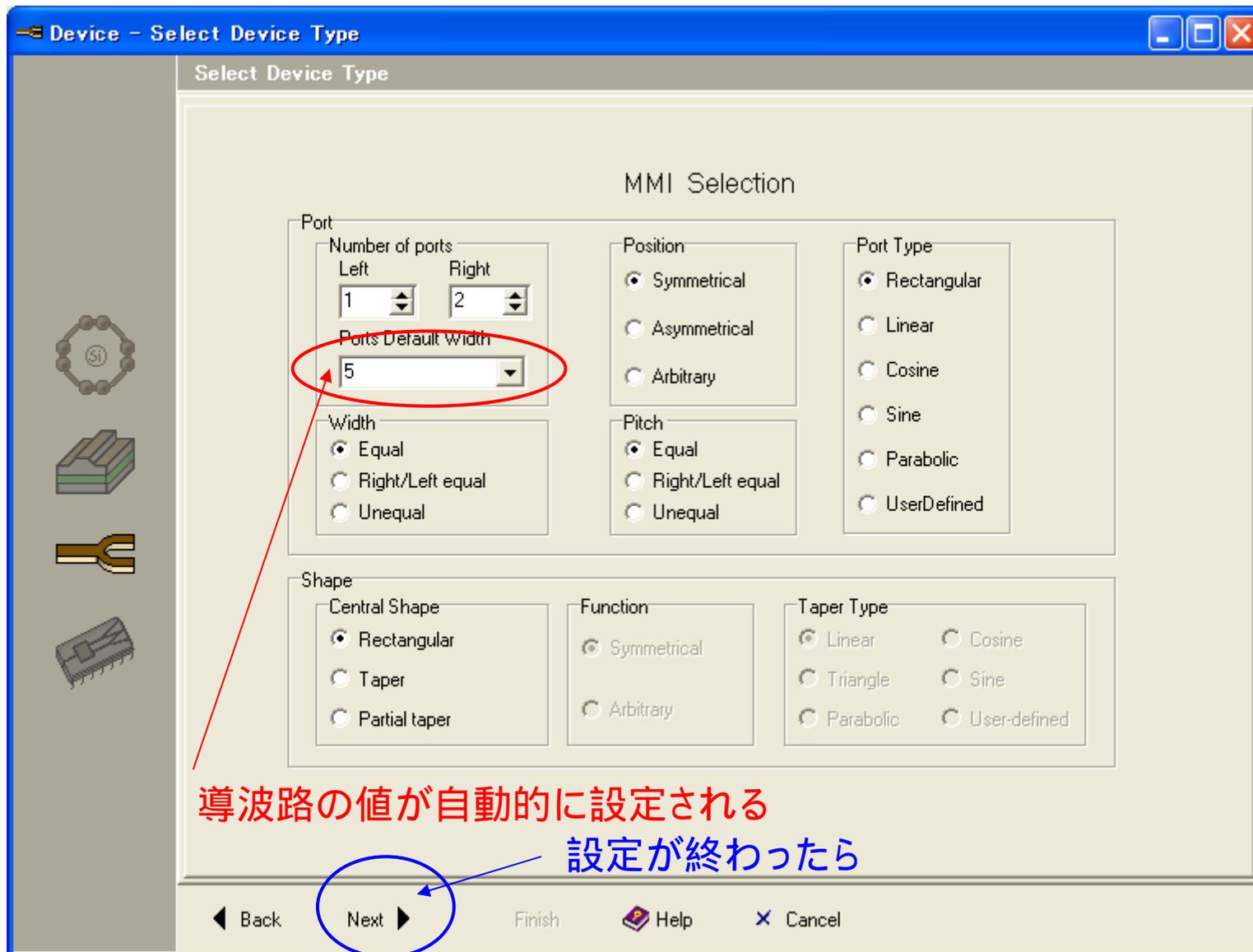


図16. 対称型MMIの選択

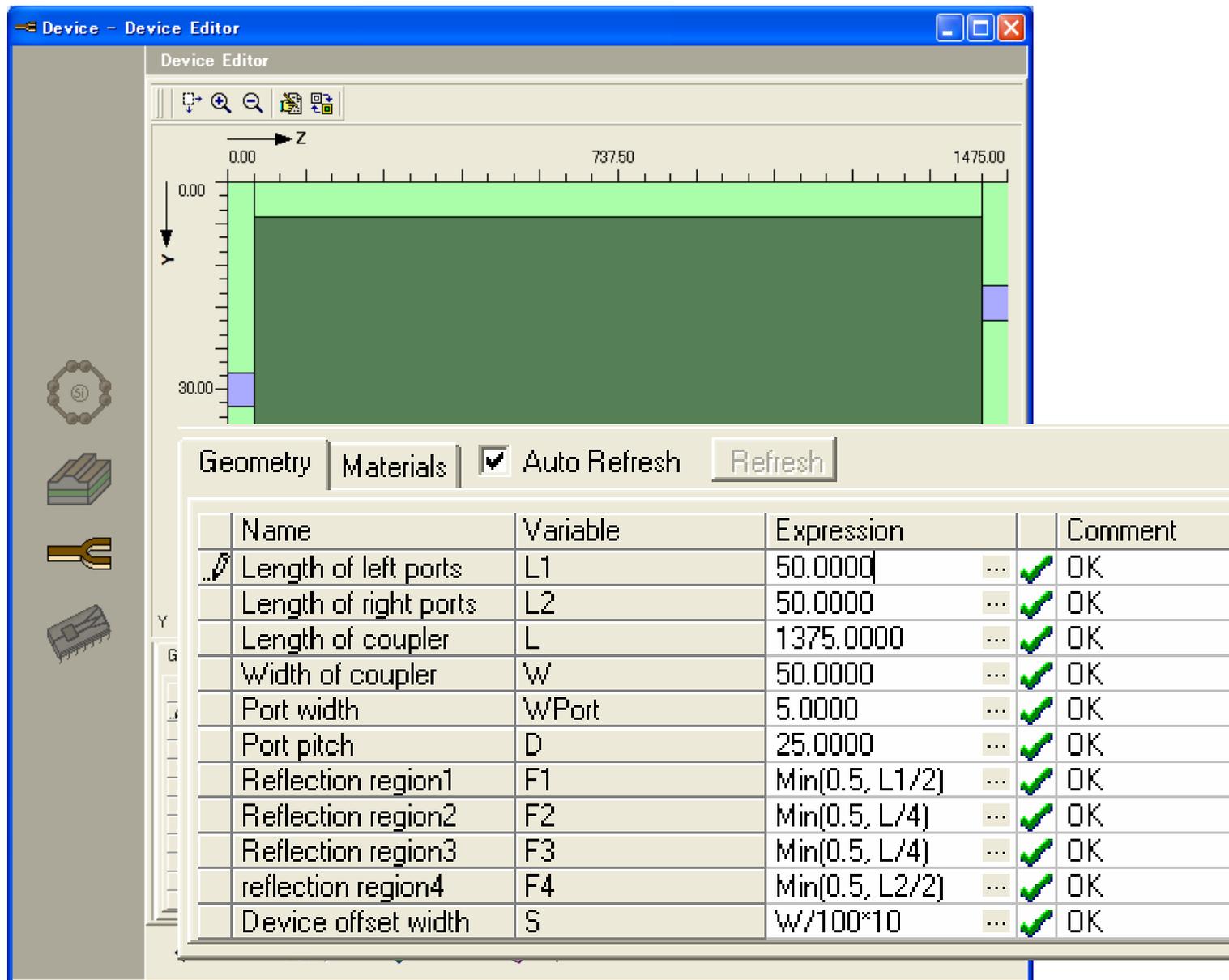


図17 . MMIの寸法定義

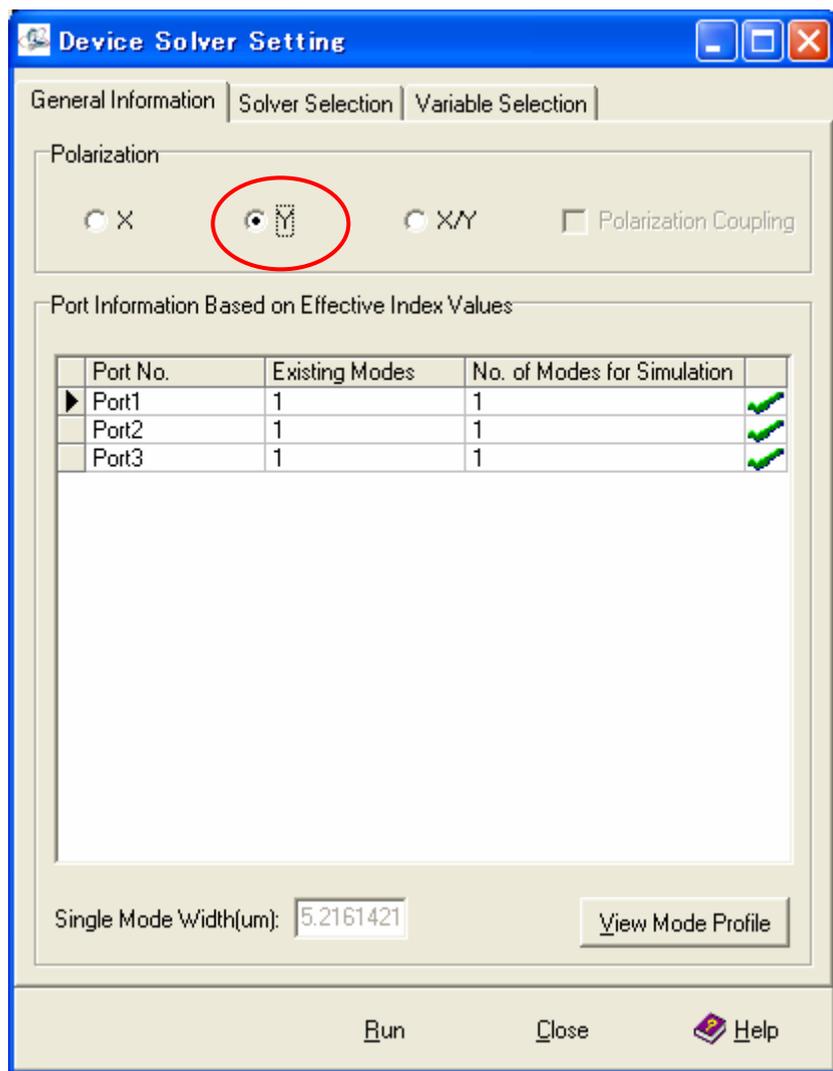


図17. TEモードの解析

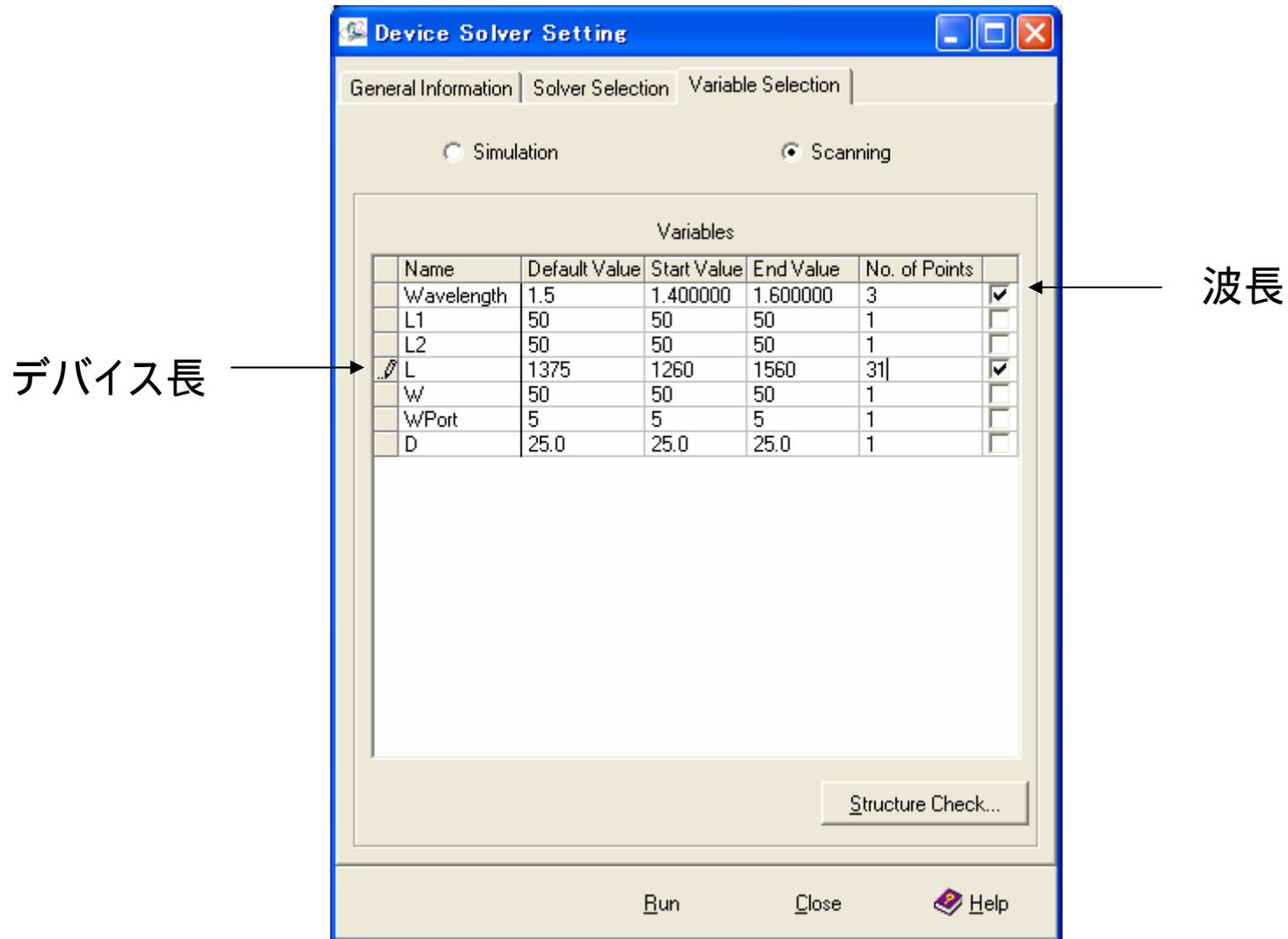


図18. TEモードの解析

波長とデバイス長を同時に変化させてスキャン計算を行なう。

General Information | **Solver Selection** | Variable Selection

Output Selection
 S Parameter Field Reflection

Input Selection
 Input Port: Port1 Polarization Coupling
 Mode: Mode1 UserDefine Wave Function

Name	Value
▶ Wavelength	1.5

Solver Dimension
 2D 3D

Solver Type
 Analytical Numerical

Section Position
 Dynamic Showing
 Plane: Y-Z Position: 9 Field: Ey

Run Close Help

導波路計算と同じ波長範囲、間隔とした。
このタブで修正可能

Sパラメータ計算の選択

今回は2次元とした。
2次元でも結構な計算量である

次頁以降のメッシュ設定へ

図19 . TEモードの解析

全ての設定が終わると実行

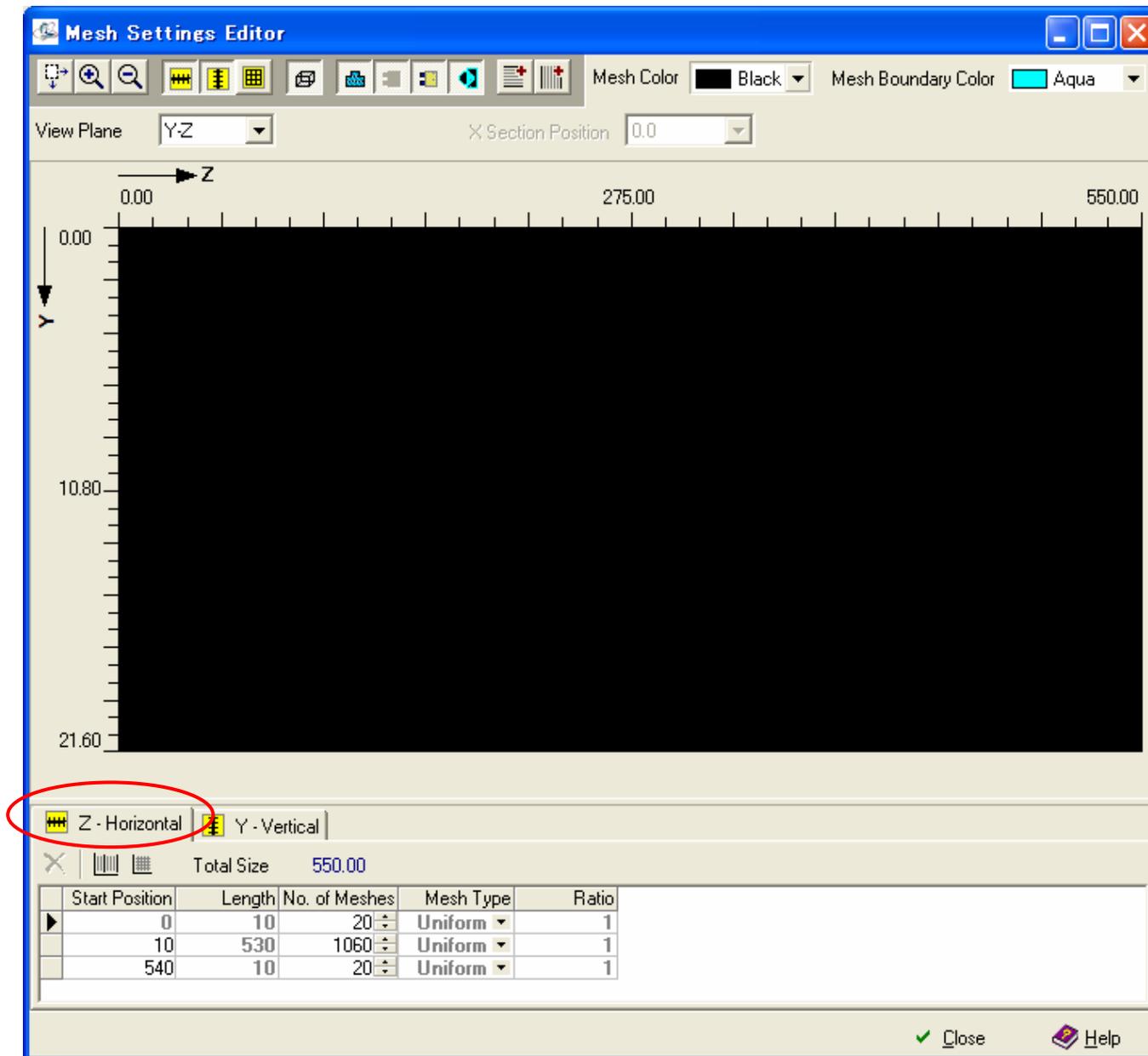


図20.Z方向のメッシュ設定

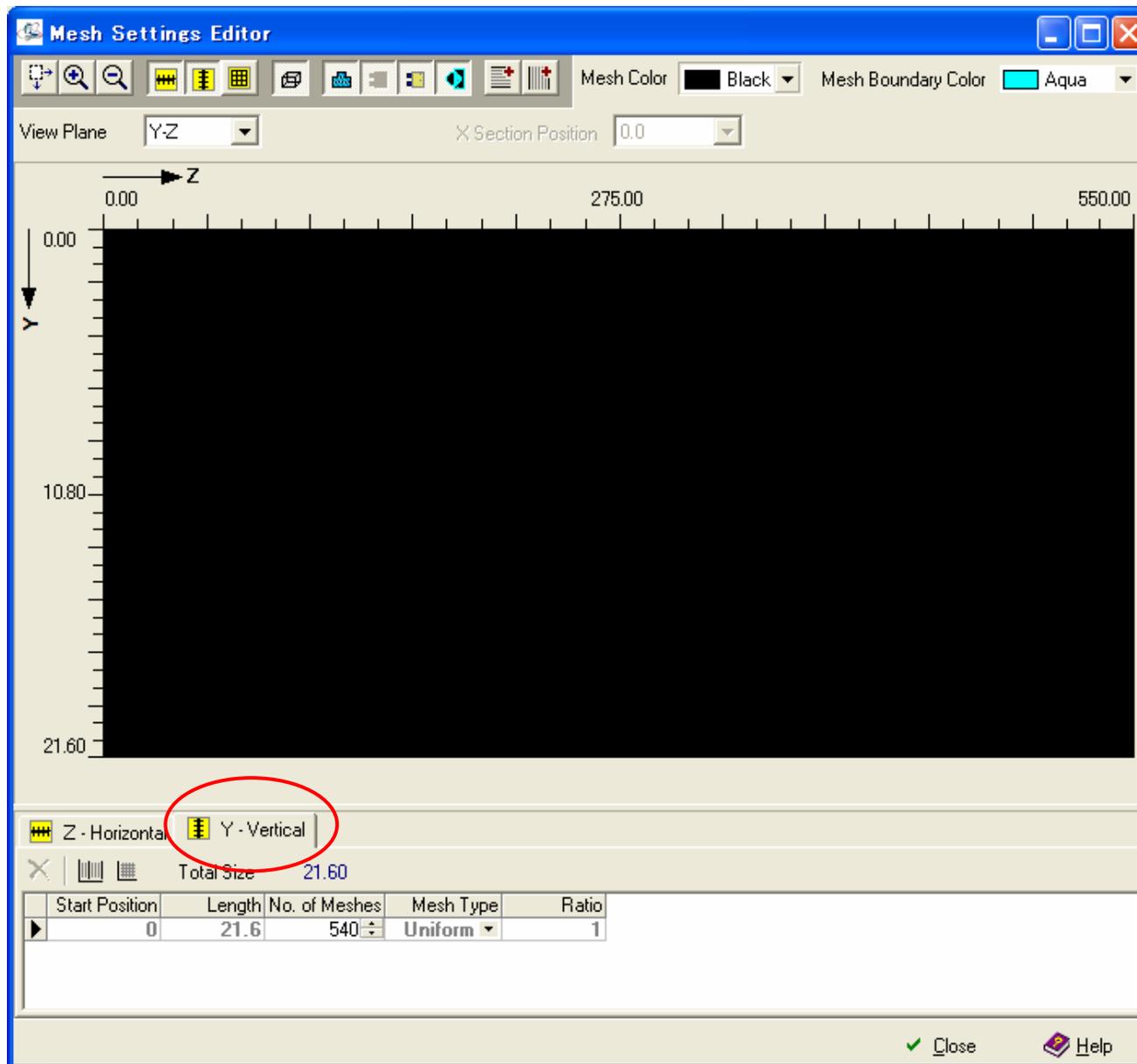


図21 . Y方向のメッシュ設定

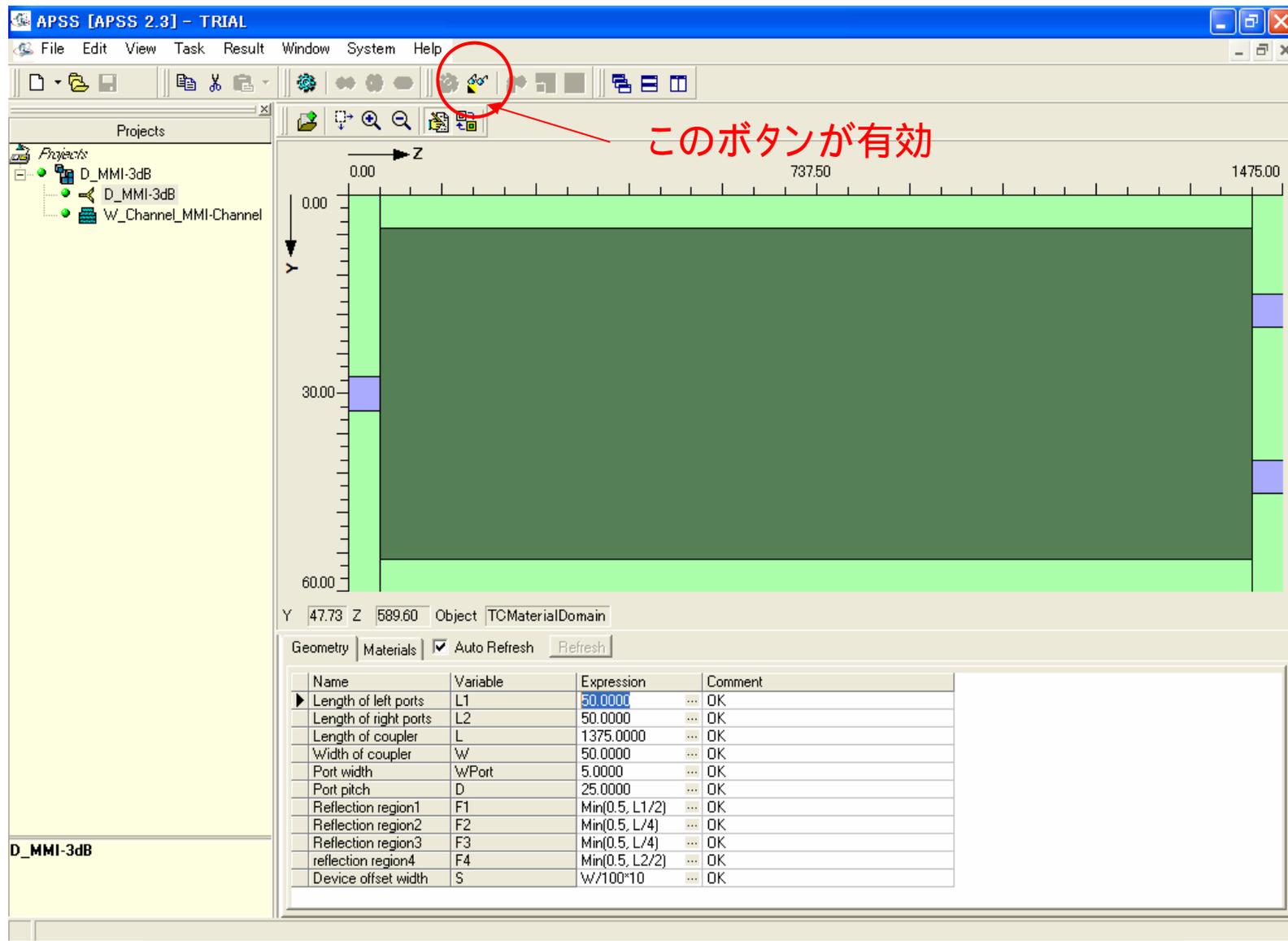


図22. 計算が正常に終了した状況

波長をパラメータとしてL依存

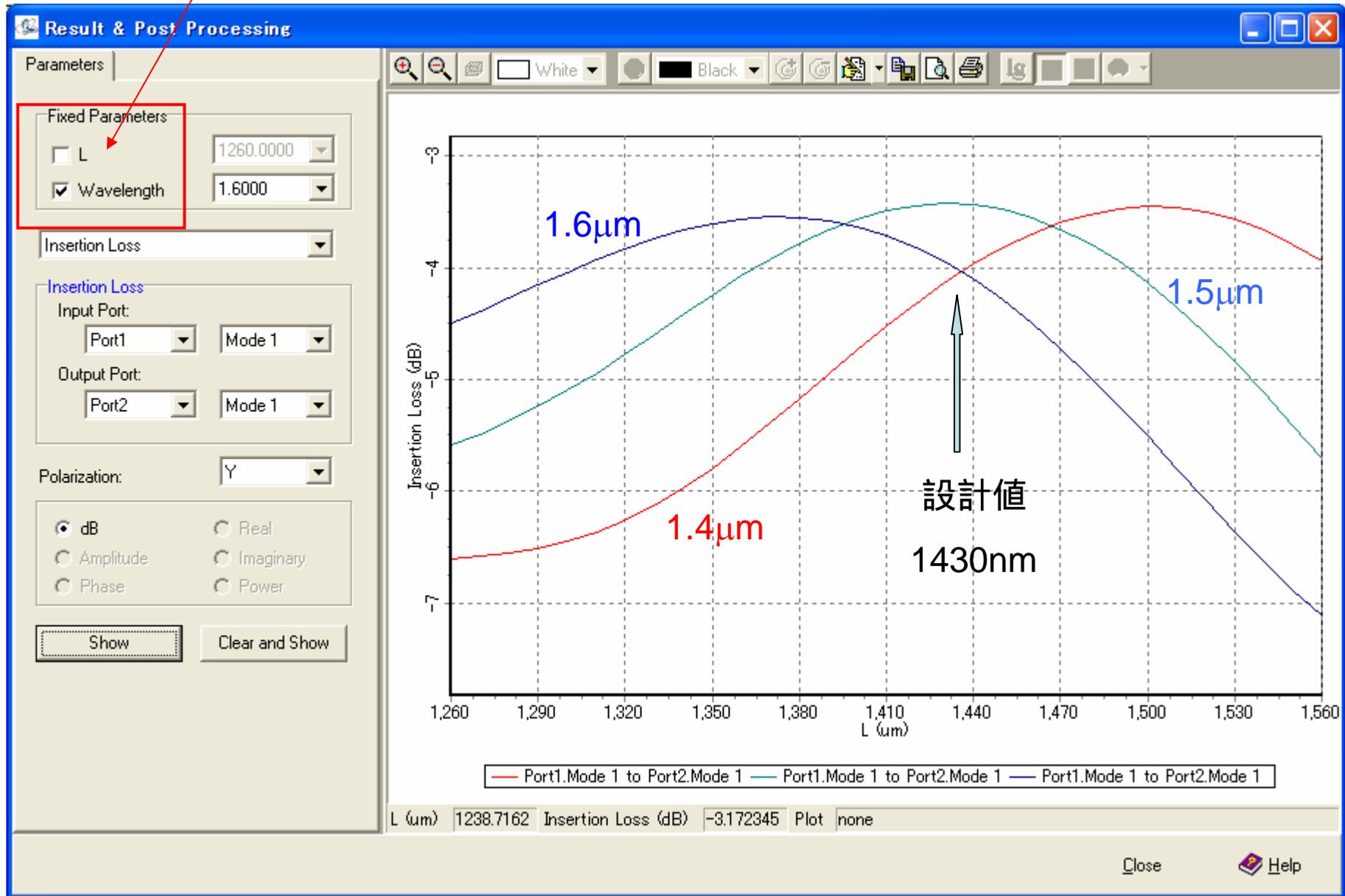


図23. 挿入損失とデバイス長